

活動報告書(令和 2 年度～令和 5 年度)

令和 6 年 5 月



第一次産業活性化委員会

活動報告書(令和2年度～令和5年度)

第一次産業活性化委員会

【令和2年度】

①〈活動方針〉

- ・ブランド化、流通改革、消費者ニーズを踏まえた生産物の供給、高付加価値製品の開発、6次産業化によって、愛媛の一次産業は活性化し、地域の雇用を創出し得る産業になると考えられる。このため、県内の6次産業化の実施企業から講師を招き、取組み等の紹介を行っていただくとともに、取組み企業の視察を行い、『withコロナ/afterコロナ』への対応を含めて、一次産業活性化のためのヒントを得る。

②〈事業計画〉

- ・県内の6次産業化の実施企業から講師を招いて、現状並びに今後の取組みの紹介をいただき意見交換会を実施する。
- ・愛媛県の研究機関から専門家を招聘して、新商品開発についての現状を紹介いただく。
- ・県内外の6次産業化の取組み企業の視察研修を行う。

③〈活動内容〉

令和2年8月28日(金)16:00～

- ・正副委員長会：伊予鉄会館 6 階 同友会会議室
議題：今年度の委員会活動について

令和2年11月20日(金)15:30～

- ・第 1 回委員会：伊予鉄会館 6 階 同友会会議室
懇親会：新型コロナ感染拡大のため中止
議題：①今年度の委員会活動について
②新型コロナ感染拡大により視察研修は中止
③勉強会

テーマ『県内の6次産業化の推進に向けた取り組みについて』

講師：愛媛県農林水産部 農政課 6次産業推進グループ

担当係長 西脇 大介氏



【令和3年度～令和4年度】

①〈活動方針〉

- ・『With コロナ時代』を見据えて、その先にはどのような価値観が定着していくのだろうか？ブランド化、流通改革、消費者ニーズを踏まえた生産物の供給、高付加価値製品の開発、6次産業化によって一次産業は活性化し地域の雇用を創出し得る産業になると考えられ基幹産業である『農業』『漁業』『観光』を組み合わせ地域一丸となり、魅力を高め、地域課題を解決する地域の自立が求められている。このため県内外の取り組みをオンライン等でご紹介頂くとともに、一次産業活性のためのヒントを得る。

②〈事業計画〉

- ・県内外の一次産業への取り組みを Web 会議システム等のリモートを活用してご紹介いただき意見交換会を実施する。
- ・愛媛県の研究機関から専門家を招聘して、現状の取り組みについてご紹介をいただく。
- ・今後のコロナウイルスの感染状況により、視察研修を行う。

③〈活動内容〉

令和3年7月5日(月)16:00～

- ・正副委員長会：宇和島第一ホテル会議室
議題：今年度の委員会活動について

令和4年3月25日15:30～

- ・第1回委員会：いよてつ会館 6 階 同友会会議室
委員会：テーマ『内子町石畳地区の暮らしの継承と、
石畳つなぐプロジェクトの役割』
講師：株式会社石畳つなぐプロジェクト 代表取締役 寶泉 武徳氏



テーマ

「内子町石畳地区の暮らしの継承と、 石畳つなぐプロジェクトの役割」

- 1 石畳地区における村並み保存運動
- 2 石畳つなぐプロジェクトの取り組み
 - ・栗を中心とした六次産業化への挑戦
 - ・石畳の宿を拠点としたツーリズムの推進

石畳地区のコミュニティ

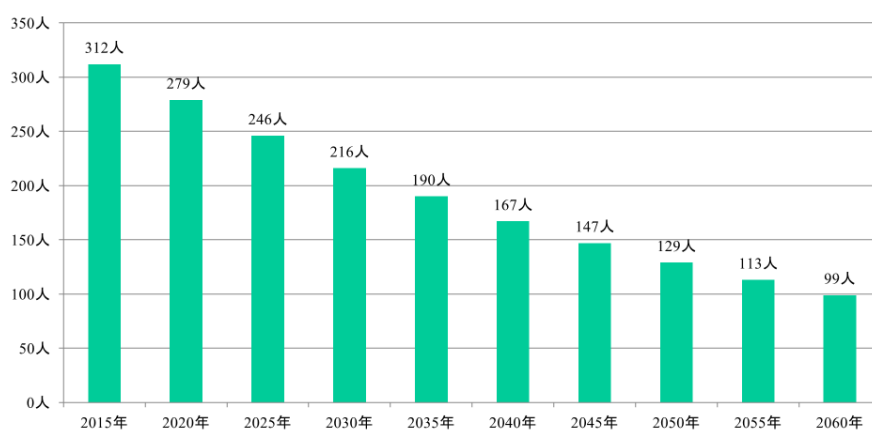
人 口:270人、世帯数:120戸

石畳小児童:8人、高齢化率:52%



2015年運動会

石畳地区の人口推計



「自分たちの地域は自分たちでつくる」と
景観を守り、創り、魅力を発信してきた。

しかし、人口減少の歯止めはかからない・・・。

持続可能な地域を創造していくため、自治力、文化力に
加え「**経済力**」を強化

石畳つなぐプロジェクト

～運動から事業へ 花から団子へ～

未来に希望をつなぐ

住民が主体になって
30年前から村並み保存運動に取り組んできた石畳地区。
このむらの魅力を
新しいカタチで表現していくこと
で、美しい風景や豊かな暮らしを
未来につないでいく。

◎みがく

日本の四季折々の風景や伝統、繊細、丁寧な日本人の美意識が外国から評価されているなか、石畳地区の多様な資源をさらに磨き、新しい感性で創造的にデザインする力を持って世界の人たちも惹きつけられる地域をめざします。

◎つなぐ、つながる

地域の魅力を伝えるために人と人、人と資源、地域内と地域外をつなげていきます。若い人たちの柔軟な発想とアイデアをつなぎ合わせて地域づくりに活かしていくとともに、地域外とのネットワーク構築でそれぞれの強みをいかし、ノウハウを共有することでお互いの良い関係を築いていきます。

◎ひとつ守る、ひとつ変える

地域の伝統や暮らしを守り継続させることは大事。しかし情報発信手段や価値観が日々変化するなか、これまでの常識にも変化が起きていきます。地域あるもの、伝統や文化を新しく見せ、時代を超えて現代にいきいきとよみがえらせていくため、「ひとつ守る、ひとつ変える」をスローガンに地域が一丸となって前進します。

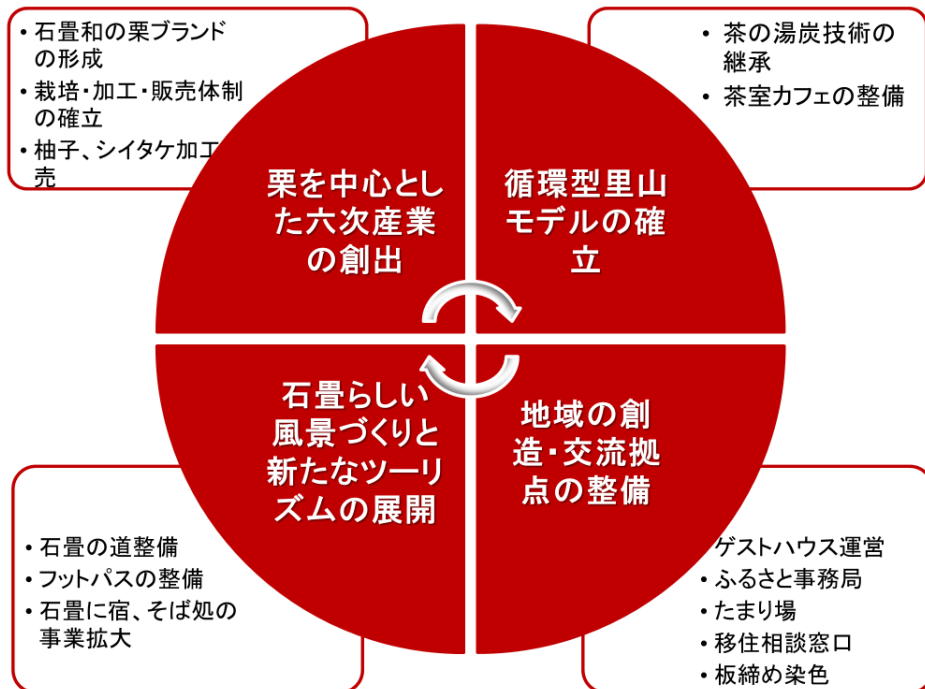
◎石畳、どうぞ

食やコミュニティ、美しい景観など本物の自然や文化は地方にこそ存在します。守り受け継がれた伝統や景観を強みに外に向かって変化を起こせられる地域をめざします。

◎稼ぐ

美しい風景や地域の伝統行事を守り、助け合う共同体を維持していくため稼ぐ仕組みをつくっていきます。農産加工品の安定生産、販路開拓を行うとともに、おもてなしなどのサービス提供から雇用を生み出します。

石畳つなぐプロジェクト事業の柱



1. 栗を中心とした六次産業の創出

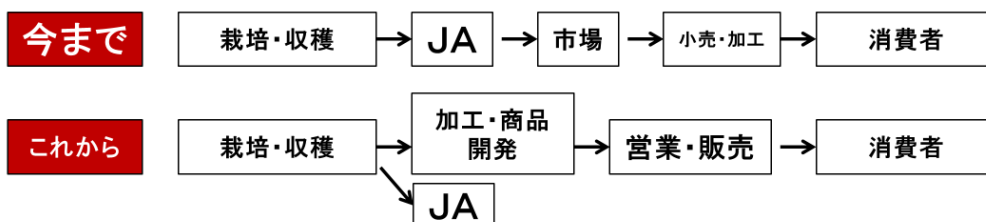


石畳栗の現状

- ・30戸の農家が年間50トンを生産する県内有数の産地
- ・栗生産者手取りは、約560円/1kgと低価格

栗の需要

- ・日本の生産量は約1.6万トン、消費量は約3万トン
- ・秋のスイーツランキングでも、モンブラン、マロングラッセ、栗きんとんなど上位



産地の強みを活かし、地域で雇用を創出をめざす

(1) 栗を中心とした6次化産業の創出

【分野】 スイーツ、栗生産・加工

【強み】 ・集落レベルでトップクラスの生産量

・精鋭部隊による栽培管理・指導で「質・量」を両立

【環境】 ・国内需要超過（加工品）+国内生産量（生栗）の減少傾向（高齢化など）

【課題】 ・生産時期の繁忙期が短期集中型・・・人手不足

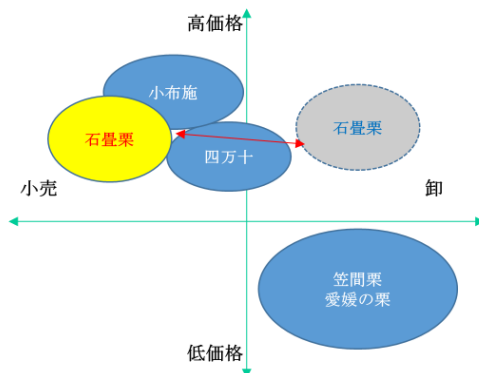
・加工の技術の習得、加工担い手の確保

【競合】 四万十、中山栗、小布施、茨城県笠間栗、など



【ミッション（志）】 「質」で選ばれる高級栗ブランドをめざす！

【ポジション】・・・高品質・高価格・売り先限定（ブランド優先）→高価格の卸先の開拓



【目標】(5年後)

- ・石畳栗生産者 7人→12人
- ・生産量2トン→20トン
- ・売上1000万円→5000万円
- ・常時雇用0人→5人

- ・加工場整備
- ・リアル店舗オープン

令和4年8月31日(水)17:00～

・正副委員長会: 宇和島第一ホテル会議室

懇親会: 海鮮居酒屋がいや

議題: 今年度の委員会活動について

令和5年3月1日11:00～

・第1回委員会: 株式会社宇和島プロジェクト様 新工場見学

見学内容について

第一次産業活性化委員会では、3月1日に「みかん鯛」「みかんブリ」「チョコブリ」などで知られ、宇和海水産物の生産や加工品の国内外への販売を手がけている。株式会社宇和島プロジェクトの最新鋭工場を、委員会メンバー17名で視察、2022年6月に完成した新工場の1階2階は加工場、3階はオフィスとなっています。

見学は、食品衛生管理、フードディフェンスの徹底のため、実際にエ

場内に立ち入らず、会議室で、工程ごとに取り付けられたカメラの映像を見る形で行いました。バイヤーとの商談もこのような形で、映像を見ながら行っているとのことでした。

新工場の立地は、海に隣接し船を横付けができ、水揚げが効率よくできます。現在1日 20,000 枚のスライス加工ができるものの、今後はもっと増やす予定で、工場には、技能実習生や、インドネシアの高度外国人材も多数在籍しています。

取り扱いの品種は、ブリ、マグロ、タイ、シマアジ、マハタ、イサギ等で、養殖しているものや、宇和海で水揚げされる魚はほとんど加工できます。養殖の魚はラインで加工。サイズがばらついたものについては、手で加工対応し、製品については、バーコードで管理しています。

プロトン凍結機で内部から凍らせて、冷凍時に魚の細胞を壊さず、解凍しても、おいしく食べれるよう提供しています。超低温マイナス 60 度の冷凍庫もあり、マグロのスライスなどを保管しています。SWIT(スウィット)という高砂熱学工業と宇和島プロジェクトが水産加工場用に開発した空調システムを使用し、工場内は 15 度に冷やし、巡回吹き出し気流により、少ない風量で省エネルギーの運転ができ、人がいるところだけ冷やす仕組みで、国外への販売も考えているとの事です。輸出はコロナの影響で 5%に減っているものの、今後は回復してくるとの予想で、海外では、ブリが大変人気があるそうです。

JTBと共同で、宇和島を知って欲しい、来てほしい、との思いから、みかん鯛の養殖体験ツアーを売り出しています。ジュースの搾りかすや柑橘の皮の大量廃棄という課題の解決と、農業と水産の組み合わせという、ユニークな取り組みを評価してもらっており、SDGSの学びのプランとしても人気があり、いけすでのマグロ1本釣りプランも販売し、通訳等、海外からの旅行者にも対応しています。工場視察、見学後には宇和島プロジェクトで加工した、ほのかに柑橘の香りがするミカン鯛の刺身等の料理をメンバーで頂きました。



令和5年3月20日(月)15:30～

・第2回委員会:いよてつ会館 6 階 同友会会議室

委員会:テーマ『県内6次産業化の推進に向けた取り組みについて』

講師:愛媛県農林水産部農政企画局農政課

6次産業化推進グループ 担当係長 平野正人 氏



県内の6次産業化の推進に 向けた取組みについて

愛媛県農林水産部農政企画局
農政課 6次産業化推進グループ



1

1 6次産業化とは

【法律上の定義】

「一次産業としての農林漁業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業との**総合的かつ一体的**な推進を図り、**地域資源を活用した新たな付加価値**を生み出す」
取組み

（「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」（六次産業化・地産地消法）前文より）

2

1 6次産業化とは

農林漁業者が主体となり、農林漁業者の所得向上を主な目的として実施する取組み



3

因みに・・・

農林水産物などの地域資源を有効に活用するため、**農林漁業者**と**商工業者**がお互いの「**技術**」や「**ノウハウ**」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大等に取り組むもの



農商工連携

4

【6次産業化のメリット】

- 加工品販売による**所得向上**
 - ▶ 商品の高付加価値化
 - ▶ 規格外品の有効活用
 - ▶ 収入機会の増加
- 他業種との連携による**地域活性化**
- **自分の思い・こだわり**を消費者に届ける
- 加工品から一次産品への**顧客の拡大**



5

2 国における6次産業化施策

【農林水産省の施策】

「**農山漁村発イノベーション**」対策（R4～）

これまでの6次産業化を発展させ、農林水産物や農林水産業に関わる**多様な地域資源を活用**し、多様な主体の参画により新事業や付加価値を創出する取組みを支援し、**農山漁村における所得と雇用機会の確保や農山漁村の活性化を目指す。**

（例）観光や福祉、教育、スポーツ等との連携

6

農山漁村振興交付金(国交付金)

「**農山漁村発イノベーション対策**」

⇒別添資料

「農山漁村発イノベーション対策の活用について」

7

3 愛媛の6次産業化の現状

農水省「6次産業化総合調査報告(R2年度)」では・・

農業生産関連事業
(年間販売金額)

- ・農産加工
- ・農産物直売
- ・観光農園
- ・農家民宿
- ・農家レストラン の計

順位	都道府県	年間販売金額	割合
1	北海道	1,540億円	7.6%
2	静岡県	1,003億円	4.9%
3	福岡県	825億円	4.1%
4	熊本県	790億円	3.9%
5	愛媛県	760億円	3.7%
	：		
	47都道府県合計	2兆0,329億円	

8

3 愛媛の6次産業化の現状

[参考] 本県の項目別年間販売金額と全国順位

	年間販売金額					
	計	農産加工	直売所	観光農園	農家民宿	農家レストラン
全 国	20,329億円	9,187億円	10,535億円	293億円	36億円	279億円
愛媛県	760億円	470億円	284億円	2.8億円	0.07億円	2.9億円
Rank	5	3	12	31	38	34

○本県の年間販売金額760億円のうち、「農産加工」が全体の**6割**を占めている。○「農産加工」の販売額は都道府県別で、全国**第3位**となっている。○「直売所」の販売額も順位に大きく寄与しており、順位は12位だが、**1事業者当たりの年間売上額**は1億円(280事業者)を超えており、沖縄県に次いで全国第2位となっている。

9

漁業生産関連事業 (年間販売金額)

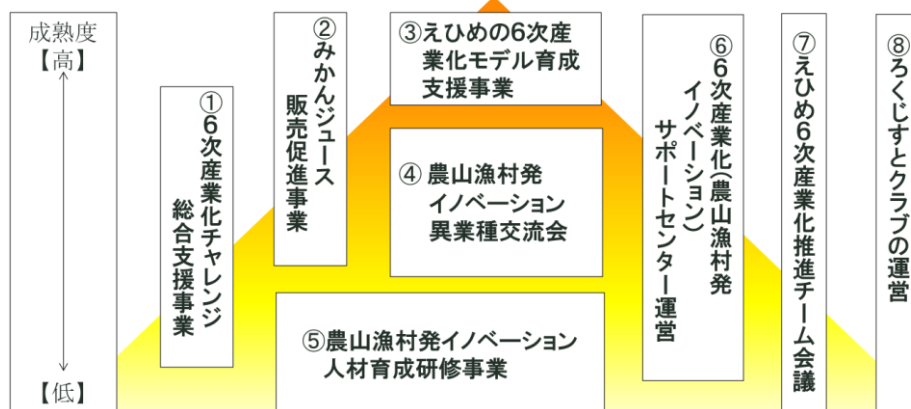
- ・水産加工
- ・水産物直売
- ・漁家民宿
- ・漁家レストラン

の計

順位	都道府県	年間販売金額	割合
1	北海道	538億円	25.4%
2	鹿児島県	162億円	7.6%
	：		
9	和歌山県	52億円	2.5%
10	茨城県	50億円	2.4%
11	愛媛県	49億円	2.3%
	：		
39都道府県合計		2,121億円	

10

4 愛媛県の6次産業化推進施策



11

4 愛媛県の6次産業化推進施策

① 6次産業化チャレンジ総合支援事業

新たな6次産業化商品の開発やブラッシュアップに関する経費の支援



成分分析



パッケージ作成

先進地視察
販路開拓機械等購入 など
(事業目的に必要なもの)

補助率:1/2以内, 上限:150万円

12

【目標】



裾野の拡大

- ・事業スタート時における取組みの加速
- ・早期の事業化



規模拡大による所得の向上

- ・将来的に大規模な6次産業化等による売上の拡大により、県産品の知名度向上に資する新たな商品等の開発を支援

13

【実績】

平成26年度～令和3年度（8年間）

延べ**75事業者**、169商品の加工品開発等を支援

〔主たる生産物ごとの支援事業者数〕

柑橘	水産物	畜産物	その他	計
27	5	9	34	75

14

【令和5年度】

①〈活動方針〉

- ・私たちの『衣食住』を支えている一次産業が、高齢化による担い手不足など、様々な問題に直面しています。数年前から言われているように、少子高齢化が進むと予想されている日本の一次産業は今後も低迷していくと考えられます。農林漁業者が農畜産物の生産だけでなく、製造・加工や卸・小売・観光等の産業へ挑戦し、新しい商品や付加価値を生み出す6次産業化は、所得の向上や雇用の創出、そして地域の活性化

に繋がると考えます。このため県内外での取組み事業者との意見交換、及び現地での見学を行い、一次産業活性化のためのヒントを得ます。

②〈事業計画〉

- ・一次産業活性化への取組み企業を紹介いただき、高付加価値製品の開発、及び雇用の創出等に意見交換会を実施する。
- ・愛媛県の研究機関から専門家を招聘して、現状の取組みについてご紹介をいただく。
- ・県内外の取組み企業の視察研修を実施する。

③〈活動内容〉

令和5年7月10日(月)17:00～

- ・正副委員長会

議題:今年度の委員会活動について

令和5年11月10日(金)15:00～

- ・第1回委員会:ベルグアース株式会社本社 視察研修

見学内容について

当社は年間約 4,000 万本の野菜接ぎ木苗(トマト・キュウリ・ナス・スイカ・メロン)などの生産・販売を主力事業とし、国内トップの接木苗生産量を誇ります。最新の農業技術や施設を見学、農業の現状について山口社長よりお話を伺いました。

接ぎ木技術を育むことにより、病気に強く、多くの実をつけることにより生産性向上と省力化を手助けする苗へと成長、全国の生産者に支持されるようになった。民間の推計では 2050 年、国内の農業人口が現状より 8 割も減り、食卓から国産の農産物が消えていくと言われていて、飽食の時代は終わりに近づいている。食の未来を守るには食材の無駄を無くし、効率的な農業経営の推進や、農家が持続的に作物を生産できる価格の引き上げが必要であるとの事。

【最後に】

令和2年度から令和5年度、第一次産業活性化委員会では、6次産業化によって一次産業は活性化し、地域の雇用を創出し得る産業になると考え、県内の研究機関から専門家を招聘しての勉強会の開催、6次産業化の取り組み企業の視察研修を行いました。

国における6次産業化施策として多様な地域資源を活用した新たな付加価値を生み出し、農山漁村(地方)における所得の向上と雇用機会の確保により活性化を目指すとされています。

しかし、人口減少、就業者の高齢化、気候変動等の環境変化もあり、当地の第一次産業は国が考えている以上に危機的状況にあると思います。ICT、AI、ドローン、ロボットといった先端技術の活用も不可欠ですが、一企業の経営努力に委ねるのではなく、産学官が連携し、地域としての自治力、文化力、経済力を高めていくことに一層真剣に取り組まなくては、真の意味での生産性向上や人手不足の解消には繋がらないと、活動を通じて実感しました。

厳しい環境であるものの、地域が一体となって、持続可能な新しい事業形態を模索し、チャレンジを続けていくことが、一次産業活性化に繋がると信じています。

第一次産業活性化委員会

代表幹事	野本 政孝	(株)サンメディカル	代表取締役会長
〃	山口 普	(株)フジ	代表取締役社長
委員長	松爲 教輔	名門サカイ(株)	取締役社長
副委員長	河田 剛治	(有)宇和島第一ホテル	代表取締役
〃	木和田 権一	(株)宇和島プロジェクト	代表取締役社長
〃	高田 哲也	(株)高田商店	代表取締役社長
〃	徳弘 多一郎	(株)タイチ	代表取締役
〃	畑中 貴博	(株)ほけんラボ	代表取締役
委 員	石丸 智仁	(株)修斗	代表取締役
〃	岩本 佳	(株)SSP	代表取締役社長
〃	上田 一之介	(株)大介	代表取締役
〃	内田 幸恵	(株)キャンプネット	取締役会長
〃	遠藤 忍	楽天農業(株)	代表取締役
〃	大西 洋一	(有)椿工藝	代表取締役
〃	岡田 克志	(株)エス・ピー・シー	代表取締役社長
〃	尾崎 英雄	(株)フジ	代表取締役会長
〃	織田 哲也	四国電力(株)愛媛支店 営業部 宇和島営業所	宇和島営業所長
〃	加藤 輝之	(株)育成アシスト	代表取締役CEO
〃	烏谷 健	(株)ドコモCS四国 愛媛支店	愛媛支店長
〃	北村 泰治	共栄火災海上保険(株)	四国支店長
〃	久徳 壮一郎	(株)アクティブモア	代表取締役
〃	久保 悦男	愛媛林産商事(株)	代表取締役社長
〃	重松 栄治	(株)いよぎん地域経済研究センター	代表取締役会長
〃	芝 祥二	(株)芝開発	代表取締役
〃	島原 茂	(有)島原保険	代表取締役
〃	島原 吉之	四国乳業(株)	代表取締役社長
〃	上甲 真大朗	(株)トラック1バン	代表取締役
〃	清家 幹広	(株)かどや	代表取締役社長
〃	清家 義幸	宇和島信用金庫	理事長
〃	高橋 寅明	(株)ぞっこん四国	代表取締役
〃	高橋 英行	アインス商事(有)	取締役
〃	武田 敦年	(株)みかん職人武田屋	代表取締役
〃	立花 達典	立花(株)	代表取締役
〃	田中 忠助	(株)田中蒲鉾本店	代表取締役専務
〃	谷本 典量央	(株)谷本蒲鉾店	代表取締役会長

〃	谷山 章	全日本空輸(株)	松山支店長
〃	田室 和紀	愛媛県民球団(株)	専務取締役
〃	堤 敏朗	堤製パン(株)	社長
〃	藤堂 真二	(株)藤堂組	代表取締役
〃	西岡 貞夫	(株)上浮穴ホーム	代表取締役会長
〃	西崎 政吉	西崎石油(株)	代表取締役
〃	二宮 正行	(株)二宮工務店	代表取締役
〃	野本 政孝	(株)サンメディカル	代表取締役会長
〃	野本 雄揮	(株)サンメディカル	代表取締役社長
〃	橋本 隆	(株)ブリッジカンパニー	代表取締役
〃	長谷部 愛	長谷部青果(株)	代表取締役
〃	早川 義仲	(株)トライアル	代表取締役
〃	藤田 敏子	(株)クック・チャム	代表取締役
〃	本田 和也	(有)太陽ファーム	社長
〃	前田 耕作	(株)マエダ	社長
〃	松島 陽子	(株)コバヤ	取締役
〃	三瀬 泰介	(株)三瀬商店	取締役会長
〃	宮本 英之介	(有)昭和水産	代表取締役
〃	三好 潤子	アビリティセンター(株)	会長
〃	向井 淳一	向井淳一税理士事務所	代表
〃	村井 剛	(株)松南園	代表取締役社長
〃	村井 重美	(株)松南園	代表取締役会長
〃	村上 泰久	(株)ウイン	取締役副社長
〃	森川 裕蔵	(株)ウッドランド森建	代表取締役社長
〃	山口 一彦	ベルグアース(株)	代表取締役社長
〃	山本 太一	山本太一事務所	愛媛県議会議員
〃	山本 恒久	えひめ洋紙(株)	代表取締役社長
〃	山本 嘉秀	八幡浜汽船(有)	代表取締役
〃	山本 良文	(株)アマデウス	代表取締役社長
〃	渡部 裕司	(株)ミック	代表取締役社長